

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 27年10月23日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1691100083		
法人名	株式会社 ファミュー		
事業所名	ふれあいホーム小泉		
所在地	富山県射水市小泉310-1		
自己評価作成日	平成27年9月10日	評価結果市町村受理日	平成27年12月1日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	北証パトナ株式会社		
所在地	富山市荒町2番21号		
訪問調査日	平成27年10月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

事業所の名称にある「ふれあい」の言葉を念頭に置きながら、地域の色々な人とのふれあいやこれまでの利用者と家族との絆を大切に、利用者お一人お一人の思いを汲み取りながら支援に努めている。また、事業所内の畑では苺やさつま芋等の野菜を育て、食材に使ったり、花壇には季節に合わせた花を植え、水やり等をしてもらい利用者に季節感を感じて頂けるように取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

理念の「幸せと安心の実現」に基づき、1年の振り返りと気づきを含めて、ユニット毎に当年度の目標を職員全員でつくりあげ、利用者に寄り添ったケアに取り組んでいる。開設以来6年目で地域に根付いており、地域との関わりを大切にして地域の行事にも積極的に参加、民生委員の協力を得て公民館祭りに利用者の作品を展示してもらう等地域との交流を図っている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

ふれあいホーム小泉

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は職員が出社時、目につく玄関にあり、「幸せと安心の実現」を掲げ支援を行っている。また理念を念頭に置きながら、毎年3月には前年度の各ユニット目標の反省と、次年度の目標を決め支援を行っている。ユニット目標も玄関に張り出している。	理念の「幸せと安心の実現」を基に、当年度の目標をユニット毎に職員全員でつくりあげ理念を共有し、利用者に寄り添ったケアの実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設より地域の伝承の会のボランティアの方々に定期的に来所して頂き、交流を深めている。また、自治会の納涼祭や地域の公民館祭りにも積極的に参加し交流を図っている。	地域の行事に積極的に参加し（自治会の納涼祭、地域の公民館祭りでは、利用者の作品展示）地域との交流を図っている。また、地域ボランティアも定期的に訪れ、歌や踊り紙芝居等で利用者が楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所見学時や入所申込時等、在宅介護で困っている事があれば、認知症の人の理解や援助方法など、分りやすく説明を行っている。また地域包括支援センターからの協力依頼や地域住民からの相談にいつでも乗れるように努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の場を利用し、外出時、利用者の日々の生活の様子の写真や、動画をパソコンを使って具体的に紹介している。自治会長及び民生委員の協力のもと、地域との交流について協議をしている。	射水市、地域包括支援センター、自治会、民生委員、家族代表の参加を得て定期的に開催し、事業所の活動報告や参加者からの情報収集で意見交換を行い、サービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	分からない事や支援方法についての相談が生じれば、直ぐに連絡し協議を行っている。より良いサービス提供に繋がるよう指導、助言を受け協力関係を築いている。	射水市の担当者とは、日頃から連絡を取り合っている。また、地域包括支援センターからの認知症に関する協力依頼にも応えることで、協力関係を築くよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間帯以外は玄関の施錠は行わない。利用者の状況に応じ見守り強化し、拘束しないサービスが定着している。	身体拘束については、職員会議を通して確認し理解を深めている。また、最近の虐待報道等を話題に取り上げ会議で話し合うなど、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に繋がるような不適切な言葉遣いやケアが行われていないかどうか、職員会議や職員勉強会で再確認を行い話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者1名が成年後見制度を利用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約書を読み上げるだけでなく、家族が分かりやすく理解出来るように、契約に関するQ&Aや具体例をあげて説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に何でも言ってもらえるような雰囲気づくりを常に考え、信頼関係が築けるように努めている。面会時に最近の利用者の様子を伝え、出された意見や要望に対して反映出来るように努めている。	家族面会時に、意見・要望を聞くようにしている。「ふれあい通信」で家族に利用者の生活実態を伝えるようにしている。また、協力医の変更など、家族からの照会や質問にも丁寧に説明を行っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段より職員からの意見や提案を随時聞き入れている。又、職員会議を通して職員からの意見や提案等を聞く機会を設け働きやすい職場作りに努めている。	代表者、管理者は日頃から職員とコミュニケーションを図り、意見や要望を聞くとともに、職員会議の場でも職員の意見や提案を聞く機会を設け、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の日々の勤務態度や協調性等を昇給や賞与に反映させ職員の頑張りを評価している。頑張りに対しては、その都度言葉で、評価や感謝を伝えている。出来るだけ職員の事情に応じた勤務体制になるように努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりのケアの向上を目指し、定期的に事業所内で勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	各種研修会を通じて市内の同業者と、情報交換や交流を図り、サービスの質の向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式を使い一人ひとりの利用者の生活歴の把握と、入所当初の関わりを多くし、利用者の生活環境の変化による不安を取り除けるよう支援している。利用者の要望や困っている事が解決できるよう利用者向き合い、お互いにより良い関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の苦労や生活状況を聞く事で、今までの思いやこれからの思いを理解し、どのような対応が出来るか話し合い、安心して利用出来るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時、センター方式を活用し、本人及び家族の思いや状況を把握し、日々の生活状況の報告による支援方法の提案を行い、必要としているサービスが提供出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本当の家族にはなれないが、共に暮らす者同士として、利用者と職員が家事を行ったり、季節のイベントや誕生会を行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と利用者の絆や、一緒に過ごす時間を大切に出来るよう面会、外出、外泊の時間制限を設けず行えるようにしている。お盆や年末年始も事前に予定を聞く等して家族との関わりを保てるように心掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないうよう、支援に努めている	利用者は在宅時に利用していたお茶会に入居後も継続して参加して頂き、利用者一人ひとりの馴染みの場所や人が途切れないように支援を行っている。	利用者と一緒におやつのお買い物に出かけ地域の方々と挨拶を交わしたり、馴染みのお茶会に出掛けたりして、馴染みの関係が途切れないように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が楽しく過ごせるように職員が間に入って一緒に食事を取るなど、良い関係が保てるように働き掛けをしている。心身の状態や感情により利用者同士の関係にも変化がある為、注意し見守りを強化している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等による退居後の入所先に対する不安が大きく、家族や病院のソーシャルワーカーと連携を取りながら、その後の経過を見守るようにしている。また、入院によって利用が途中中断した場合でも、病状の経過や家族の要望により居室の確保に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活支援の中で利用者お一人お一人に寄り添い、意向や希望の確認に努め、関わりの中で思いを汲み取りながら利用者のペースで支援を行っている。	重度化が進み思いが伝わらなくなってきたとしても、作業や家事を一緒にする中から思いをくみ取るようにしている。喜んだ表情や笑顔から本人の気持ちが伝わるので様々な活動に誘うようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を取り入れ、家族からこれまでの生活歴、日々の過ごし方、サービスの利用状況等を確認し、利用者が自分らしく暮らしていける為の支援に繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムをセンター方式を活用して情報の共有を図り、利用者の行動や表情の変化、会話から心身の状態を感じ取り、その人全体の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりの中で、常に状態の把握に努め、新たな課題が生じた場合などは、関係者間でカンファレンスを実施し、ケアの在り方や支援方法の変更を行っている。	担当職員が行ったアセスメントをもとに課題を抽出し計画を作成している。計画のサービス内容は支援方法が具体的に細かく表記されわかり易くなっている。毎月モニタリング会議を開き3ヶ月に1回の評価を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを用意し、食事、水分量、排泄等身体的状況及び日々の記録を基に介護計画の見直し、評価を実施している。また個別ファイル以外に毎日の気づきが記入できる連絡ノートを作成し、職員同士の情報の共有化を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて医療機関の通院等、必要な支援には柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎日少しずつ張り絵等の作品を地域の公民館祭りの作品展に出展し、達成感や観覧の楽しみを持つ事が出来るよう地域と連携し支援を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の選択は本人や家族の希望に応じている。必要な医療が受けられるように協力医と連携を取って支援している。	専門医に家族と通院している方も含め、協力医の訪問診療を月2回受けている。体調変化があればすぐに往診してもらったり、地域内の医院に検査を依頼してもらう体制が整っており、身近で安心できる連携がとられている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所の看護師は協力医療機関の看護師と日々の状況や利用者の体調管理等を綿密に連絡、相談を行い、利用者が安心して生活出来るように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、入院までの状況を介護サマリーにて情報を伝えたり、必要に応じて直接医師や看護師に詳しく伝え、安心して治療が出来るように支援している。また定期的に見舞いに行った際、早期に退院出来るように担当看護師と情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族には重度化が進んでいく段階で、医療的な処置には対応出来ない事など、事業所が出来る支援を十分に説明を行っている。必要に応じて協力医療機関と相談の上、今後の支援方法を家族と話し合っている。	看取りについては契約時に説明を行っている。重度化が進み状態の変化がみられた段階でかかりつけ医と家族が相談し今後の対応を決めている。本人の状態から治療の必要性や支援方法などを十分に検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置し、緊急時、事故発生時には緊急時対応マニュアルに沿って対応している。また職員会議等で緊急時対応の再確認を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画、非常災害時の対応マニュアルを作成し、消防署、防災業者の協力を得て避難訓練、消火器の使い方等の訓練を行っている。	これまでに地域校下の防災訓練に参加している。最新の防災情報は回覧板にて把握している。また、施設内にAEDが設置されている事を地域にもお知らせしている。防災用品や水・食料は3日分を備蓄している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常の支援の中で本人の人格を尊重した言葉かけ、プライバシーに配慮した声かけ、対応を職員一人ひとり意識するように努めている。	同じ話のくり返しや物忘れがみられる利用者の対応では声の強弱や口調、名前の呼び方に注意している。ケアプランの中に支援の仕方を細かく記入し実践しているが、継続して守っていく事は難しい。	入居期間が長く馴れ合いの関係となってしまう中で、利用者の「その人らしさ」を尊重した対応が継続していけるように、職員全員で取り組まれることが期待される。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や思いを大切にし、自己決定出来るような場面作りに努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、利用者それぞれの体調や生活のペースに合わせ、その時の本人の気持ちを尊重して支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望があればカットや毛染めなど、理美容店へ行けるように対応している。また、事業所内で利用者に化粧をして頂く化粧療法の支援を行っている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事の準備、後片付けをしている。畑で採れた食材を使用し楽しく食事が出来るようにしている。	畑で色々な野菜を育て、採れたて野菜を手作りおやつやおかずの1品に加えている。食事は職員も同じテーブルを囲んで食べ、介助の必要な方は自分のペースでゆっくり食べることが出来るように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事摂取量を記録し栄養バランスやその日の水分量等を把握している。毎月体重測定を行い、個々の食事のバランス等の対応を検討している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを働きかけ、緑茶を使うなどして、必要に応じた援助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表より、個々の排泄のパターンの把握に努め、必要に応じて時間ごとの声かけや誘導を行っている。状態の変化についても職員間で話し合い、個別の排泄支援を行っている。	一人ひとりに合った声かけや誘導、介助を行いながら、失敗なく排泄できるように支援している。状態の変化により自分でできなくなっても、申し送りや連絡ノートで介助方法の変更を伝えさりげない支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操を日中の活動に取り入れたり、水分補給の徹底に努めている。またオリブオイルやヨーグルトを利用して便秘の予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は決められているが、本人の体調や気分、入浴拒否があれば無理強いせず翌日に振り替えれるよう対応している。また身体状態が悪い時は足浴で対応し、一人ひとりが気持ちよく入浴出来るように支援している。	入浴の拒否があっても誘うタイミングや声かけの工夫を行い気持ちよく入浴できるようにしている。その日の状態に応じて足浴やシャワー浴になる事もあるが負担の少ないように配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	事業所内の過ごし方は本人の体調や表情などを見て居室、ソファや畳みスペースで利用者のペースに合わせてゆったり休んでもらえるように配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方、効能、副作用の説明書を各ユニットで保管し、職員がいつでも確認できるようにしている。服薬時、他の職員にも間違いがないよう薬の確認をしてもらってから、本人に手渡し状況により口腔内に入れる支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事やガーデニング等、利用者が長年やって来られた経験が発揮できる機会を作っている。利用者と一緒におやつやの買い物に出掛けたり、手作りでおやつを作ったりして楽しんで頂けるよう支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出日は決めず、体調や天候を考慮しながら外出が出来るようにしている。利用者一人でも買い物等の希望があれば職員が付き添い外出している。	畑に野菜の収穫に行ったり、ベランダで洗濯物を干すなど日常的に外での気分転換を図っている。年間行事で月1回はドライブや食事に出かける計画を立てている。地元のお茶会に参加したり自宅を見に行くなど家族の協力を得て出かける楽しみもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持については、家族と相談し、事務所で預かる事になっている。金銭の用途については、現金出納帳を管理し定期的に家族に報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば随時電話で話せるようにしている。また、手紙を書かれた場合は投函するなど支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花や植物、季節の装飾を飾り、季節に合わせた利用者の作品を展示したり、行事の写真を貼り、皆が楽しく過ごせるような雰囲気づくりに取り組んでいる。	昔ながらの梁や木をふんだんに使った建物で木のおいが五感を刺激したり、壁の材質が空気を浄化する効果が得られている。天窓からは明るい日差しが入りリビングが温かくくつろげる空間になっている。ウッドデッキは自由に出入りできる場所で日当たりよく畑が眺められる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	キッチンとリビングは一体的でホール全てが視界に入り易い。職員が色々と考えてテーブルやソファの位置を変えたりして、落ち着きのある空間作りに努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や使い慣れた家具を自由に配置してもらっている。また、昔の写真や家族との写真、本人が描いた絵なども飾ったり、仏壇を置かれている方もおられる。	備え付けのベッドの他に自宅から家具や身の回りの品を持参している。写真や自作の絵を飾ったり仏壇を置いて手を合わせるなど、自宅と同じような生活が送れるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーであり、廊下やトイレ、浴室には手すりが設置され利用者が安心、安全に暮らせるように配慮している。またトイレを認識出来るように表示を見やすい位置に掲示している。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 ふれあいホーム小泉
作成日 平成 27年 11月 26日

【目標達成計画】

優先順	項目番	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	36	利用者の方々と良い馴染みの関係の中で支援出来ている一方で、慣れ合い的な言葉遣いや対応が見られる。	馴染みの関係の中にも『その人らしさ』を尊重した言葉遣いや対応が継続して出来るようになる。	慣れ合い的な言葉遣いや対応をユニット会議で見直し、3ヶ月後、半年後に再確認を行う。	6ヶ月後
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。